



# 釧路川

KUSHIRO RIVER

# 釧路川流域の特性

釧路川は、北海道東部の太平洋側に位置し、その源を藻琴山(標高1,000m)などの屈斜路カルデラの外輪山に発し、屈斜路湖から流れ出て、弟子屈原野を流れ、弟子屈町で鑑別川、標茶町でオソベツ川等の支川と合流して、釧路湿原に入ります。

さらに久著呂川、雪裡川等の支川と湿原内で合流、岩保木地点において新釧路川となり釧路市街地を貫流して、太平洋に注いでいます。

上流の屈斜路湖等は阿寒国立公園に、下流の釧路湿原はラムサール条約登録湿地及び釧路湿原国立公園に指定されているなど、豊かな自然環境に恵まれています。

釧路川流域には、釧路市、釧路町、標茶町、弟子屈町、鶴居村の1市3町1村が存在し、中でも釧路市は、流域内最大の都市であり、東北道地域の社会・経済・文化の中心地でもあります。

※ラムサール条約：水鳥の生息地として重要な湿地及び湿地に生息する動植物の保護を目的とした条約。1971年イランのラムサール(Ramsar)で採択された。

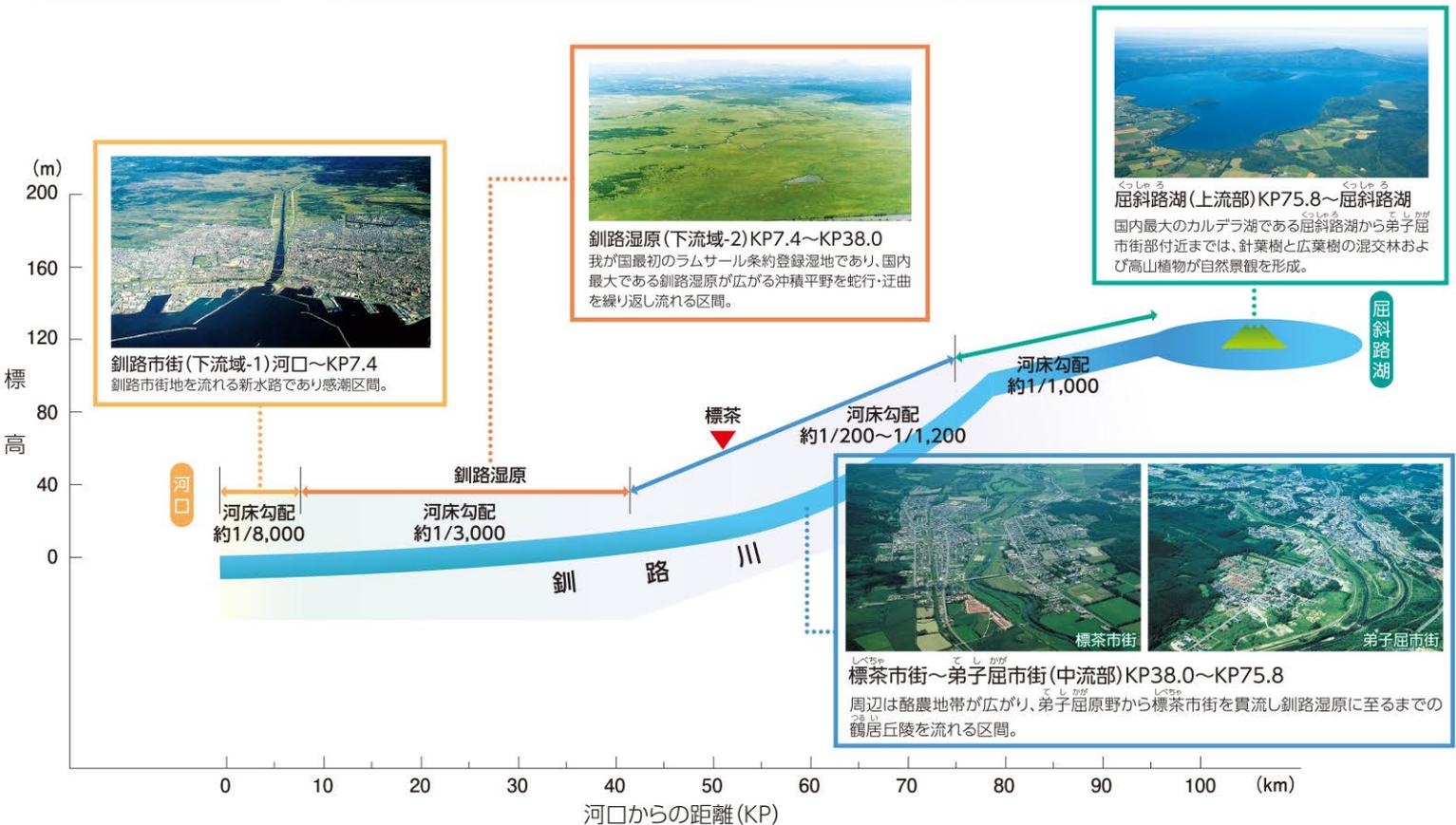


## 流域諸元

出展：国土交通省 水管理・国土保全局HP

- 流域面積 …… 2,510km<sup>2</sup>
- 幹川流路延長 …… 154km
- 流域内人口 …… 166,298人(約17万人)
- 関係市町村 …… 釧路市、釧路町、標茶町、弟子屈町、鶴居村
- 想定氾濫区域面積 …… 154km<sup>2</sup>
- 想定氾濫区域内人口 …… 89,434人(約9万人)
- 想定氾濫区域内資産 …… 1兆6,900億円

## 流域の様子



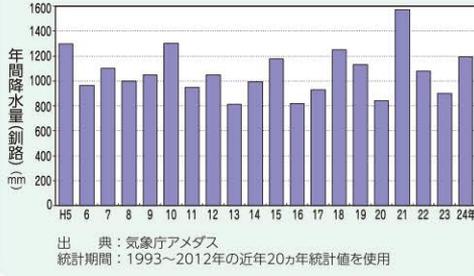
# 気象状況

流域の年間平均降水量は約1,000~1,200mmであり、下流の沿岸部は夏期に海流の影響で霧が多発し、日照が遮られる湿潤冷涼な気候です。



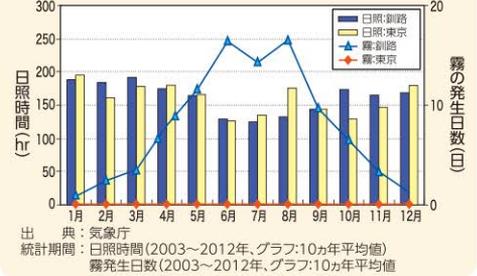
## 釧路川流域の年間平均降水量

- 釧路における年間平均降水量は、約1,000~1,200mm。
- 1,200mm以上の道南や日本海沿岸と、1,000mm以下のオホーツク海沿岸の中間に位置する。



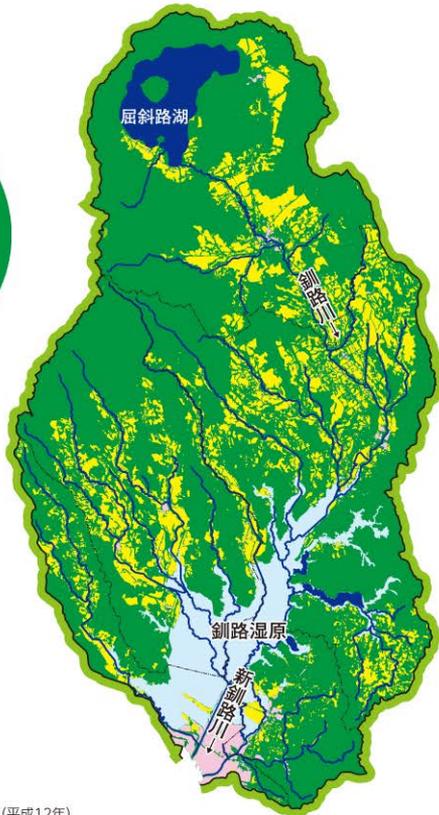
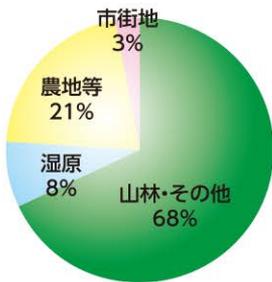
## 月別平均日照時間と霧の発生日数

- 太平洋側気候区であり、釧路における年間の日照時間は東京とほぼ同じ。
- 8月の日照時間は短く、霧の発生日数が多い。



## 釧路川流域の土地利用状況

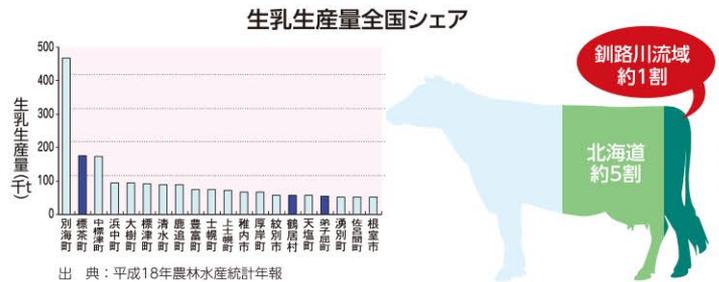
釧路川流域は、山地・その他が68%、農地等が21%を占めています。



※LANDSATデータに基づく土地利用分類(平成12年)

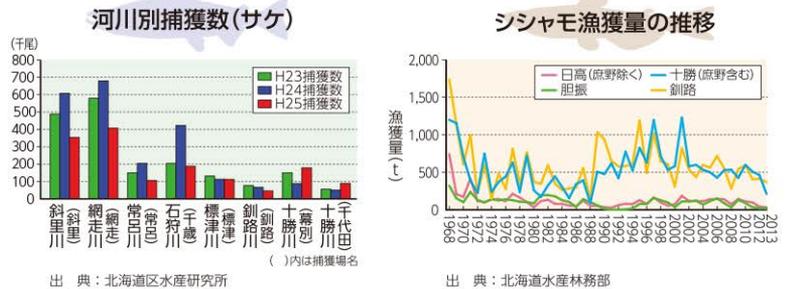
## 釧路川流域の主要産業

酪農が主要産業として盛んであり、生乳生産量は、全国シェア約5割の北海道のうち、約1割が釧路川流域です。標茶町は全道2位の生産量を誇ります。釧路・根室管内生産量の内、約230千トン/年は生乳として道外に輸送されています。



## 釧路川の水産資源

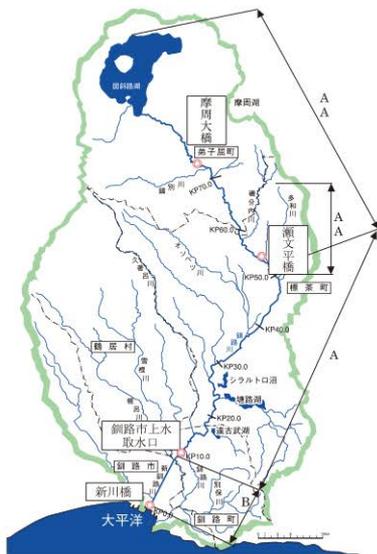
サケ・マス、シシャモのふ化事業が盛んです。シシャモは十勝・釧路管内の漁獲量が全道の漁獲量の大半を占め、主要な産地となっています。



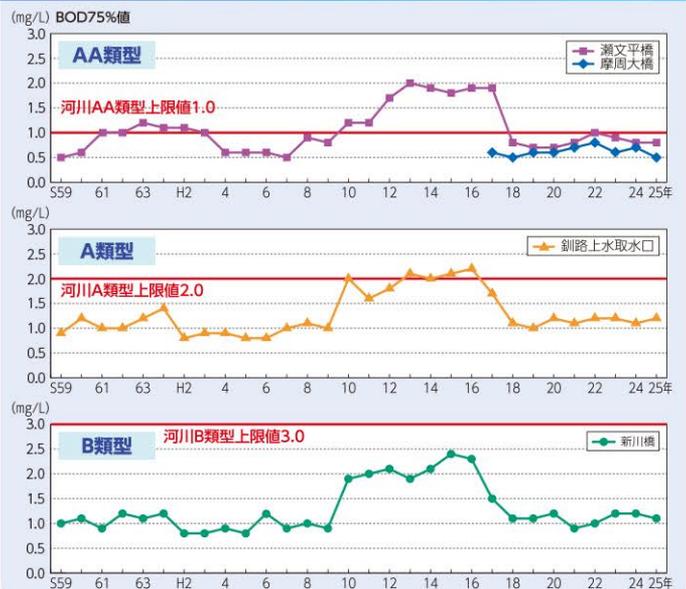
## 河川の水質

### 【現況水質】

BOD75%値は、中下流域の基準地点において指定されていた時期がありましたが、現在はいずれの地点も環境基準値内となっています。



### 釧路川の河川水質の推移



# 釧路川のあゆみ

～地域の安全と発展へ～

## 釧路川年表

出典 ※1～水害、※2～釧路川治水史  
※3～北海道地域防災計画、※4～災害記録、※5～水害統計

### 明治

- 明治 18年 (1885年) 10月、暴風雨により阿寒川溢水、支流氾濫し、鳥取村(現釧路市)浸水
- 明治 23年 (1890年) 阿寒川第一分水工事に着手
- 明治 29年 (1896年) 河川法公布される
- 明治 31年 (1898年) 9月、全道的な大雨による洪水
- 明治 32年 (1899年) 阿寒川第二分水工事に着手
- 明治 45年 (1912年) 9月、阿寒川切替工事に着手

### 大正

- 大正 6年 (1917年) 10月、洪水により、冠水面積103町
- 大正 7年 (1918年) 3月、阿寒川通水、新阿寒川と呼ぶ
- 大正 9年 (1920年) 8月、釧路十勝地方の豪雨で釧路川、阿寒川が氾濫未曾有の大洪水となり、阿寒川が現河道となる

【低気圧による洪水】  
流量：1,169m<sup>3</sup>/s(別保)  
氾濫面積：17,100ha※1,2  
浸水家屋：約2,000戸※1,2,3

- 大正 10年 (1921年) 釧路川治水工事が着工(新釧路川治水計画) 河口部で4万2千立方尺(1,170m<sup>3</sup>/s)とする新水路掘削を計画
- 大正 11年 (1922年) 釧路川新水路(新釧路川)の掘削に着工

### 昭和

- 昭和 2年 (1927年) 岩保木水門工事着手
- 昭和 5年 (1930年) 8月、雪裡川切替工事完了し、通水
- 昭和 6年 (1931年) 9月、新釧路川の通水式を行う 岩保木水門完成(旧岩保木水門)
- 昭和 7年 (1932年) 釧路左岸堤防完成 釧路川上流の局部改修工事が着工 釧路運河の浚渫に着手
- 昭和 9年 (1934年) 釧路右岸堤防完成
- 昭和 10年 (1935年) 9月、台風による洪水で、橋梁流出4箇所、堤防決壊1箇所
- 昭和 11年 (1936年) 10月、台風による洪水で、死者7名、行方不明6名
- 昭和 15年 (1940年) 釧路川治水工事が完了、鳥取工場の廃止

釧路川の治水事業は、広大な原野や原生林の開拓とともにあり、低平地の洪水氾濫を減少させるとともに、地下水を低下させることにより、土地利用を可能とすることを目的とし、捷水路事業を中心に進められました。

## 写真が語る洪水の爪跡



昭和35年3月洪水 標茶町の氾濫状況



昭和35年3月洪水 弟子屈町の氾濫状況



昭和54年10月洪水 弟子屈町内の浸水の状況



昭和54年10月洪水 釧路川左岸 弟子屈町南弟子屈橋付近



昭和54年10月洪水 釧路川左岸標茶町 熊牛水位観測所付近



平成10年洪水 釧路川仁多壱門下流地先

## これまでの治水対策

本格的な治水事業は、既往最大の洪水である大正9年8月洪水を契機に実施されました。この洪水では、釧路湿原全域及び釧路市街のある湿原下流域1万2千町歩にわたって氾濫し、2,000戸以上の家屋の流出・浸水等の被害が発生しました。この洪水を踏まえ、翌大正10年に同洪水流量を安全に流下させるため河口で計画高水流量4万2千立方尺(1,170m<sup>3</sup>/s)とする改修計画を策定しました。

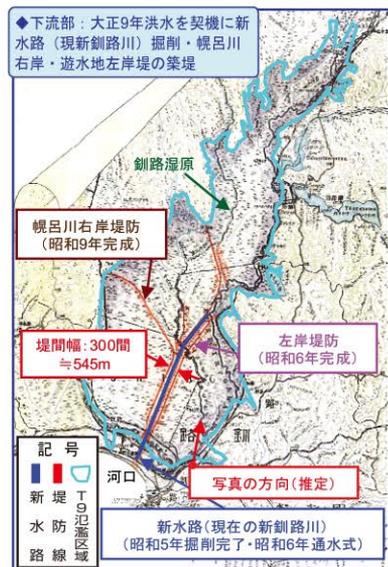
釧路市街のある下流部において、大正10年より岩保木から阿寒新川河口まで現在の新釧路川となる延長11.2kmの新水路掘削を実施し、昭和6年に通水しました。また、川幅300間(545m)の釧路市街堤防工事、さらに幌呂川右岸堤防工事等を実施するとともに、久著呂川を釧路川へ分流するための延長2.7kmの河道切替工事、幌呂川と雪裡川の合流点から釧路川新水路への延長1.1kmの水路開削を実施しました。さらに釧路川下流(現在の北海道管理区間)では、舟運が盛んであったことから、幣舞橋から別保川合流部において浚渫工事を実施しました。



大正9年洪水時の氾濫状況



現在の状況(H18.3撮影)



昭和6年度版「河川要覧」に加筆

昭和 22年  
(1947年)

9月、カスリン台風による洪水で、堤防決壊75箇所

[台風(カスリン)による洪水]

流量：618m<sup>3</sup>/s(標茶)  
田畑冠水：7,261ha(全道)<sup>※1,3</sup>  
浸水家屋：7,288戸<sup>※1,3</sup>

昭和 24年  
(1949年)  
昭和 25年  
(1950年)

釧路川中上流部の改修工事着手  
標茶町開運橋上流・釧路川切替工事竣工

昭和 27年  
(1952年)

3月、十勝沖地震

昭和 28年  
(1953年)

釧路川改修全体計画の策定

昭和 29年  
(1954年)

標茶左岸旭町・多和町築堤工事竣工

昭和 30年  
(1955年)

標茶町左岸富士町築堤工事竣工

昭和 31年  
(1956年)

標茶町左岸ルラン築堤工事竣工

標茶町市街下流右岸築に着手

昭和 33年  
(1958年)

釧路川改修計画の策定

開運橋竣工

昭和 34年  
(1959年)

オソベツ左岸築堤竣工

オソベツ川新水路掘削に着手

昭和 35年  
(1960年)

3月、大雨による融雪洪水で、堤防決壊2箇所

[低気圧(融雪洪水)による洪水]

流量：778m<sup>3</sup>/s(標茶)  
浸水被害：床上520棟<sup>※3</sup>  
床下824棟

昭和 36年  
(1961年)

南弟子屈新水路掘削工事竣工

昭和 37年  
(1962年)

磯分内掘削工事に着手

昭和 39年  
(1964年)

新河川法公布される

左岸五十石築堤工事に着手

昭和 40年  
(1965年)

9月、台風による大雨洪水で、橋梁流出2箇所

昭和 42年  
(1967年)

釧路川が一級河川に指定

釧路川水系工事実施基本計画の策定

基本高水のピーク流量

(標茶):1,200m<sup>3</sup>/s

昭和 43年  
(1968年)

標茶右岸引堤に着手

五十石橋竣工

昭和 44年  
(1969年)

熊牛築堤に着手

6,900haを洪水調節地(遊水地)として河川区域に指定

昭和 47年  
(1972年)

開運橋の伸長、拡幅工事に着手

昭和 48年  
(1973年)

沼幌地区・オソベツ川の浚渫に着手

昭和 49年  
(1973年)

弟子屈市街築堤に着手

昭和 50年  
(1974年)

5月、低気圧による大雨洪水で、堤防決壊95箇所

昭和 51年  
(1976年)

標茶左岸引堤に着手

昭和 54年  
(1979年)

4月、低気圧による大雨洪水で、氾濫面積42ha

10月、台風による大雨洪水で床上・床下浸水家屋併せて695戸

[台風20号による洪水]

流量：428m<sup>3</sup>/s(標茶)  
被害家屋：734棟<sup>※4</sup>  
浸水面積：255.3ha(釧路市・釧路町)<sup>※5</sup>  
544.2ha(阿寒町・鶴居村)<sup>※4</sup>

昭和 55年  
(1980年)

釧路川遊水地事業に着手

昭和 56年  
(1981年)

弟子屈市街築堤完了

戦後、昭和22年9月及び昭和23年9月洪水を契機として、昭和24年に標茶地点で計画高水流量900m<sup>3</sup>/sとする改修計画を策定し、標茶・弟子屈市街のある中上流域において浸水被害を防止するため捷水路掘削、堤防工事等を実施しました。この頃より、昭和25年の北海道開発法の制定による北海道総合開発計画に基づき、治水事業を推進するとともに、それによる日本の食糧生産基地としての流域の土地利用の拡大を推進しました。流域の耕地面積は昭和33年の約17,000haから昭和45年の約28,500haへと著しく増加しました。



沼幌新水路の浚渫



オソベツ川の浚渫(昭和51年)



築堤の盛土(昭和35年)

## 釧路地方の地震・津波被害

釧路川流域が属する北海道東部太平洋沿岸は、地震多発地帯であり過去に数多くの地震が発生しています。昭和27年3月に十勝沖地震が発生しており、近年では平成5年1月の釧路沖地震、平成6年10月の北海道東方沖地震、平成15年9月の十勝沖地震が発生しています。

平成5年1月の釧路沖地震では、観測史上初の震度6を記録し(死者2名、重軽傷者477名)、釧路川下流域における堤防約10kmが被災しましたが、堤防の緩勾配化等の対策を実施したことにより、その後の地震では大きな被害は発生していません。平成17年には「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係わる地震防災対策の推進に関する特別措置法」が施行されました。平成18年には釧路川流域の全ての市町村が日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域に指定され、地震発生時における被害の防止・軽減に努めることとしています。また平成23年3月の東日本大震災では広里水位観測所で1.4mの水位上昇を確認し、津波の湖上距離は11kmにもなりました。



平成5年1月釧路沖地震の被害状況



湿原右岸築堤



湿原左岸築堤

平成5年1月釧路沖地震の被害状況



標茶左岸築堤

平成6年10月北海道東方沖地震の被害状況

- 昭和 59年 (1984年) 釧路川工事実施基本計画の改定  
釧路遊水地計画の導入
- 昭和 60年 (1985年) 岩保木水門の改築に着手
- 昭和 61年 (1986年) 瀬文平築堤に着手
- 昭和 62年 (1987年) オソベツ築堤の浚渫に着手  
釧路湿原が国立公園に指定される

## 平成

- 平成 2年 (1990年) 釧路川水系河川環境管理基本計画の策定

- 平成 4年 (1992年)

**【台風17号による洪水】**  
 流量：324m<sup>3</sup>/s(標茶)  
 浸水面積：58.25ha(釧路市)\*5  
 被害家屋：26棟(釧路市)\*5

- 平成 5年 (1993年)
- 平成 6年 (1994年)
- 平成 9年 (1997年)

- 1月、釧路沖地震
- 10月、北海道東方沖地震
- 河川法改正される

- 平成 10年 (1998年)

**【台風5号による洪水】**  
 流量：255m<sup>3</sup>/s(標茶)  
 氾濫面積：106ha\*4  
 被害家屋：13棟(釧路市、釧路町)\*4

- 平成 11年 (1999年)

「釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会」の設立

- 平成 12年 (2000年)

釧路湿原のほぼ全域を河川区域に追加

- 平成 13年 (2001年)

「釧路湿原の河川環境保全に関する提言」が出される  
 旧釧路川を釧路川に名称変更

- 平成 15年 (2003年)

自然再生推進法の施行  
 釧路湿原自然再生協議会が設立される  
 9月、北海道十勝沖地震

**【台風10号による洪水】**  
 流量：337m<sup>3</sup>/s(標茶)  
 浸水面積：138ha\*4  
 被害家屋：3棟\*4

- 平成 17年 (2005年)

「釧路湿原自然再生全体構想」が策定される

- 平成 18年 (2006年)

釧路川水系河川整備基本方針の策定  
 基本高水のピーク流量(標茶):1,200m<sup>3</sup>/s  
 茅沼地区旧川復元実施計画の作成  
 土砂流入対策実施計画(久善呂川)の作成

- 平成 20年 (2008年)

釧路川水系河川整備計画策定  
 整備計画対応流量(標茶):780m<sup>3</sup>/s

- 平成 23年 (2011年)

3月、東日本大震災  
 茅沼地区旧川復元工事了

- 平成 24年 (2012年)

幌呂地区湿原再生実施計画の作成

- 平成 25年 (2013年)

茅沼地区旧川復元が土木学会北海道支部技術賞を受賞

- 平成 26年 (2014年)

新釧路川が土木学会選奨土木遺産に認定

出典 ※1～水害、※2～釧路川治水史  
 ※3～北海道地域防災計画、※4～災害記録、※5～水害統計

地震が発生した場合の対策として関係機関と連携して、光ファイバー等により地震発生時の情報伝達ルートを確認します。また必要に応じて河川管理施設の耐震対策を図るとともに地震により被害が発生した場合、迅速に機能の回復を図ります。

地震とともに津波が発生した場合、津波の遡上による河川利用者の被害や樋門からの逆流による浸水被害の発生が想定されるため、津波の河川遡上時における挙動や影響について検証するとともに、樋門の遠隔操作化・自動化などの被害軽減対策を図っています。また、関係自治体や地域住民及び河川利用者へ速やかな情報の提供を行うため、情報掲示板等の情報提供施設の充実を図ります。

発生年月日	震央名 (地域又は命名地震)	マグニチュード	釧路港 津波記録
明治27年(1894)年3月22日	根室半島南東沖	7.9	100cm
昭和35年(1960)年5月23日	チリ沖(チリ沖)	8.5	267cm
昭和43年(1968)年5月16日	三陸沖(1968年十勝沖)	7.9	138cm
平成6年(1994)年10月4日	北海道東方沖(北海道東方沖)	8.2	103cm
平成15年(2003)年9月26日	釧路沖(2003年十勝沖)	8.0	120cm
平成23年(2011)年3月11日	三陸沖(東日本大震災)	9.0	208cm

※釧路港の津波記録が100cm以上地震

### 平成5年1月釧路沖地震本復旧工事



基盤補強・サンドコンパクションパイルで基盤処理

### 平成15年9月十勝沖地震津波遡上状況



久寿里橋上流右岸(16:30頃)

### 平成23年3月東日本大震災津波遡上状況



錦町岸壁MOO浸水状況



入舟地区の浸水状況

## 津波対策：昭和樋門(遠隔及び自動化)

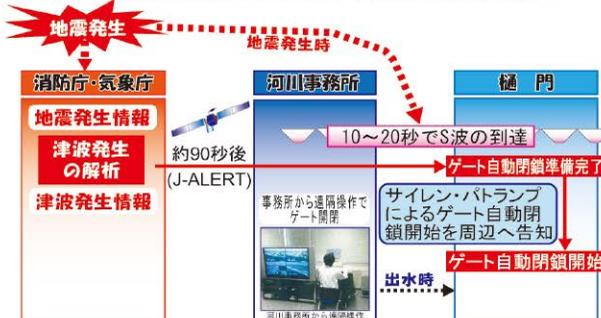


昭和樋門(遠隔自動化)



津波浸水防止の様子(河川側) 平成23年3月11日 23:48  
 河川側水位 2.18m 住宅地側水位 0.92m 水位差1.26m

### J-ALERT(全国瞬時警報システム)による水門自動閉鎖の操作フロー



情報掲示板

## 釧路湿原の保全と再生(釧路湿原自然再生事業)

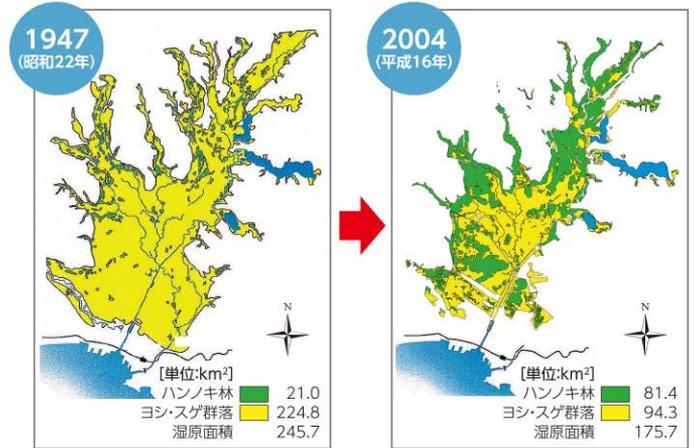
釧路湿原は、日本の湿地面積の約6割を誇る国内最大の湿原で、特別天然記念物のタンチョウを始め多種多様の貴重な動植物が生息しています。

私たち人間にとっても保水・浄化機能、洪水調節機能、地域気候緩和機能などを有しており、将来にわたって保全すべき貴重な財産です。しかし、流域の経済活動の拡大に伴い、近年60年間で湿原面積の約3割が減少、残された湿原も土砂などが湿原に流入することにより湿原生態系が変化し、植生の変化が急速に進んでいます。

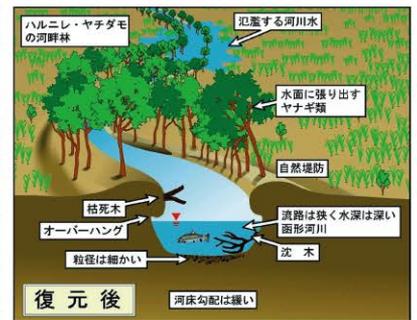
このような状況に地域住民の環境に対する関心が高まり、流域住民、専門家、NPO、関係機関等が参加した釧路湿原自然再生協議会が発足して、釧路湿原自然再生全体構想(平成17年3月)がとりまとめられました。

釧路開発建設部では、釧路湿原を保全、再生する事業を3地区で進めています。

### 湿原面積およびヨシ・スゲ群落分布の変遷



## 茅沼地区旧川復元



茅沼地区は昭和50年代に治水対策及び周辺の土地利用を目的に直線化がなされました。

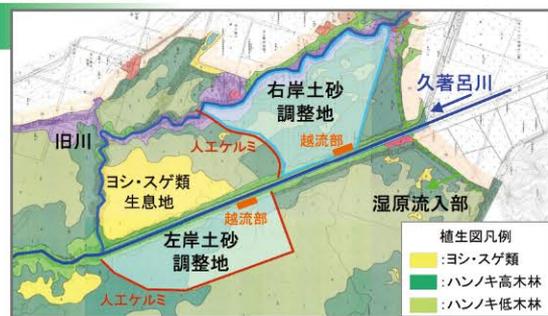
しかし、流域の湿原生態系の変化が進み、湿原特有の植生(ヨシ・スゲ群落)の減少や、湿原への土砂流入量が増加するなど環境が著しく変化し、湿原環境の保全・復元が検討された結果、「旧川復元事業」が実施されました。

旧川復元事業は平成23年3月に完了し、環境調査の結果、土砂の流入量を軽減しているほか、湿原植生が回復するなど、湿原らしい環境が戻りつつあります。

## 久著呂川土砂流入対策

釧路湿原が直面している最も重要な課題のひとつは湿原へ流入する土砂量の増加による湿原生態系の変化です。このことから久著呂川では、流域一体となって湿原に流入する土砂量を軽減するため、関係機関が種々の対策を行っております。このうち釧路開発建設部では、湿原流入部土砂調整地を整備しています。

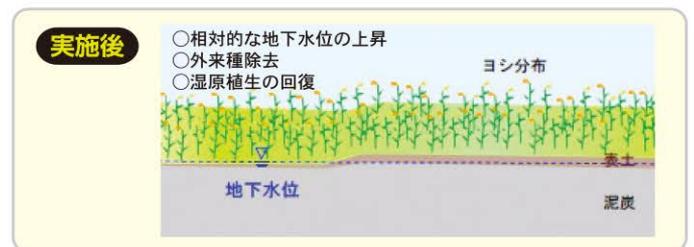
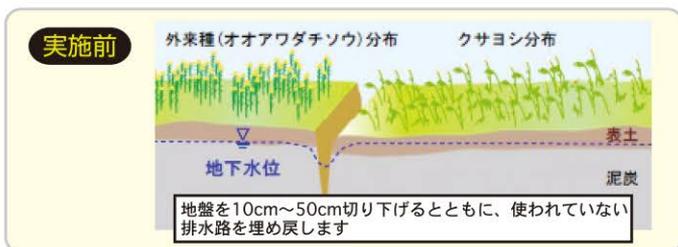
洪水時の濁った川水を土砂調整地内に溢れさせ、濁り水に含まれる細粒土砂を沈降させることで、湿原内へと流下する土砂量を軽減します。



**人工ケルミとは?**  
濁水をせき止めるために設置する、あぜ状の高まりを人工ケルミと呼んでいます。

## 幌呂地区湿原再生

幌呂地区では、経済活動により失われた湿原面積の回復を目的に、河川区域内における、かつて農地として開発され、現在は利用されていない旧幌呂川沿いの土地を湿原に回復する事業を実施しています。



## 火山噴火等に起因する土砂災害の緊急調査

火山噴火により降灰等が堆積した場合等、土砂災害が想定される土地の区域及び時期を明らかにするため、緊急調査を行います。

# 管内市町村の紹介



## て し かが 弟子屈町

- 人口 …………… 7,997人
- 面積 …………… 774.53km<sup>2</sup>

摩周湖、屈斜路湖、硫黄山など全国的にも有名な観光資源に恵まれた弟子屈町。町全体の65%が阿寒国立公園に属しています。

URL <https://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>



摩周湖



## し べ ちゃ 標茶町

- 人口 …………… 8,071人
- 面積 …………… 1,099.41km<sup>2</sup>

標茶町は釧路管内のほぼ中央に位置し、釧路湿原国立公園の45%を有しています。豊かな自然と水に恵まれた酪農の街です。

URL <http://www.town.shibeche.hokkaido.jp/yakuba/>



多和平展望台



## つ る い 鶴居村

- 人口 …………… 2,524人
- 面積 …………… 571.84km<sup>2</sup>

鶴居村は、管内中央西部に位置し、基幹産業は酪農で、乳質は全国トップレベルにあります。その良質な牛乳を使用した、チーズ・ソフトクリームも製造されており、鶴居村の特産物となっています。

URL <http://www.vill.tsurui.lg.jp/>



特別天然記念物タンチョウ



## 釧 路 市

- 人口 …………… 179,763人
- 面積 …………… 1,362.75km<sup>2</sup>

釧路市は、「釧路湿原」、「阿寒」の2つの国立公園をはじめとした雄大な自然と、経済、交通、教育、文化、医療など充実した都市機能を併せ持つ、魅力あふれる東北海道の中心都市です。

URL <http://www.city.kushiro.lg.jp/>



幣舞橋



## 釧 路 町

- 人口 …………… 20,462人
- 面積 …………… 252.60km<sup>2</sup>

釧路町は南は太平洋、北部は釧路湿原に囲まれた自然豊かな町です。細岡展望台から眺める広大な湿原に沈む夕日はとても絶景で道外からの観光客も多く訪れます。

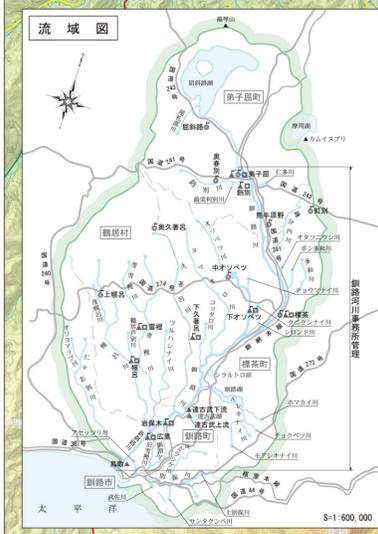
URL <http://www.town.kushiro.lg.jp/>



釧路湿原(夕日)

※面積は平成25年10月1日現在 全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院調べ) 釧路町は境界未定があるため暫定数値(該当町調べ)である  
※人口は平成25年12月末現在 住民基本台帳人口(北海道総合政策部地域行政局市町村課調べ)





凡 例	
—	築 堤
—	兼 用 道 路
—	止 水 せ ち 固 定 堤
—	水 樋 門 ・ 樋 管
—	排 水 樋 門 ・ 樋 管
—	橋
—	橋 市 計 画 区 域
—	市 街 化 区 域
—	港 湾 区 域 及 び 漁 港 区 域
—	国 道 及 び 自 動 車 専 用 道 路
—	主 要 地 方 道 路
—	一 般 道 路
—	総 合 振 興 局 界 ・ 振 興 局 界
—	市 界
—	町 界
—	大 臣 管 理 区 間
—	法 河 川
—	水 路 其 他
—	河 川 区 域
●	開 発 建 設 部 事 務 所
●	防 災 S・T・水 防 災 拠 点
●	緊 急 資 材 倉 庫 (国 土 交 通 省)
●	水 防 倉 庫 (道 市 町 村)
●	自 記 雨 量 観 測 所
●	自 記 雨 量 観 測 所 (普 通 観 測 有 り)
●	自 記 水 位 観 測 所
●	自 記 水 位 観 測 所 (普 通 観 測 有 り)
●	高 低 水 流 量 観 測 所
●	水 質 観 測 地 点 (公 共 用 水 域)
●	水 質 調 査 拠 点 (一 般)
●	無 線 ・ テ レ メ タ
●	情 報 示 板 設 置 位 置
—	距 離 標
—	浸 水 区 域 (昭 和 4年 4月 9日 発 生)
—	流 域 界
—	流 域 界
—	国 立 公 園
—	ラム サール 条 約 登 録 地 帯 指 定 区 域

1:100,000 (1km=1cm)

創路開発建設部